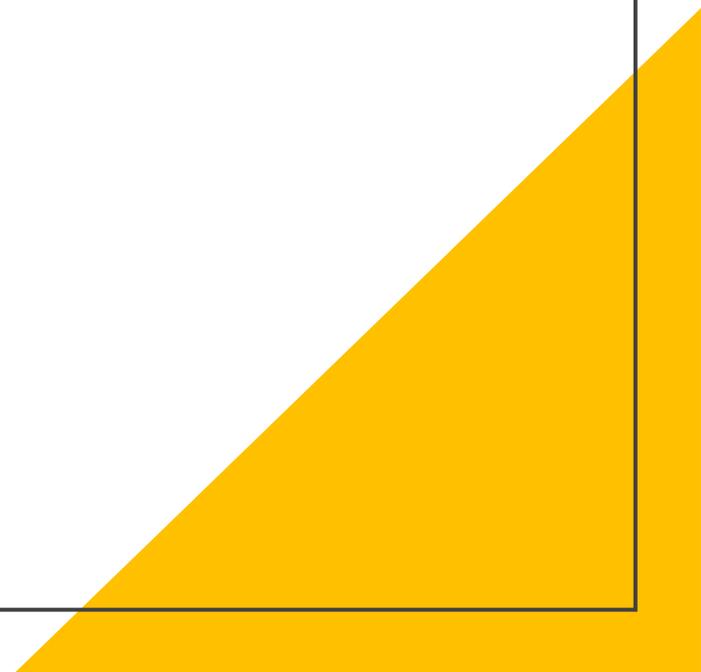


双葉町の発展 に向けて

双葉組 F班



復興の現状

双葉町東側の広いエリアが貯蔵施設などに用いられており、街並みは閑散としている

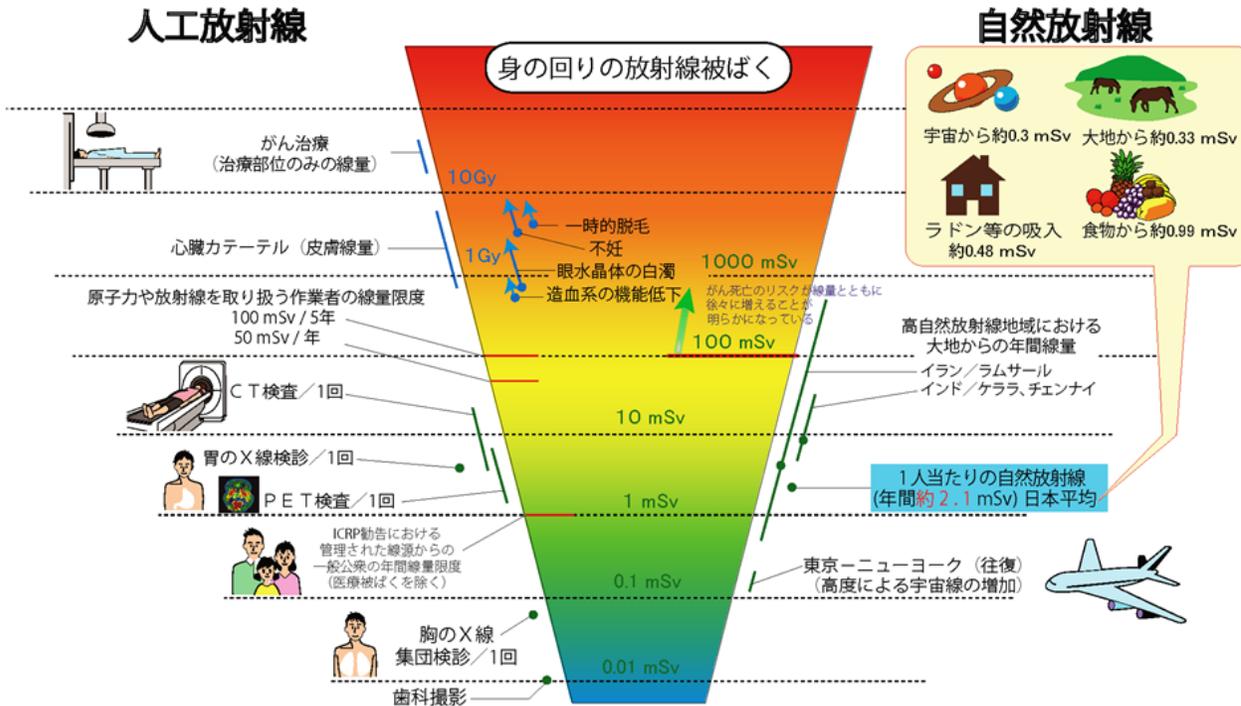
帰宅困難区域を除く地域では普通に生活することが可能であり、放射線量も基準を下回っている

しかし数値の報告に疑心感を抱く人も多い

帰宅可能だが、さまざまな理由で帰れない、帰りたくない人が多い
(すでに移住先で安定してる)

安全性を伝えている

身の回りの放射線 被ばく線量の比較（早見図）



出典：
・国連科学委員会 (UNSCEAR) 2008年報告書
・国際放射線防護委員会 (ICRP) 2007年勧告
・日本放射線技術協会医療被ばくガイドライン
・新版 生活環境放射線 (国民線量の算定) 等により、放射線医学総合研究所が作成 (2013年5月)

mSv : ミリシーベルト

東京電力の資料

原子力発電所、原子炉建屋内部
以外は軽装備での活動が可能

JESCOの資料

土壌貯蔵地区での空間線量は
0.10 ~ 1.00 μ Sv/h ほど

帰宅困難地域でも低い値になる
ほど、除染は進んできている

魅力も伝える必要

国や東電は安全性を重視して伝えているが、数値、安全性では動かない人がいる。

復興を考えたときに安全であることを伝えるだけでは、人は戻ってこない。+町としての魅力が必要。実際に、戻ってこない理由の多くは不便さ。

双葉町の優位性（チャンス）

- メディアの報道により注目されている
- 国から補助金が降りる
- 帰還困難区域の指定が解除されたばかりのところが多く、すぐに使用できる土地が多い
- 交通の面で発展しやすい

新しいまちづくりをしやすい

展望(工業)

- 住宅街の復興は少しずつではあるが順調
- 数十年後に放射性物質がほとんど消滅
- 双葉町は海沿いかつ高速道路の近く、かつ仙台と都心の中間地点に位置する
- 原発は廃炉にされ、海沿いの広大な土地がある

以上を考慮すると、原発を廃炉にした後、原発や処理施設の跡地は工業化がしやすい場所である

展望(工業)

1. 原発、処理施設跡地を工業地域にする
2. それを行うには、人、魅力が足りない
3. 双葉町の印象を向上させる

展望(環境)

「放射線で汚染されている地域」というのが国内、とくに国外からの双葉町の印象だろう

このイメージをクリーンにするには、循環型社会化、エコタウン化など環境の面からアプローチするのが有効だと思われる

双葉町は自然に富み、現在はまだ人工物、インフラも数少ない
→循環型社会、エコタウンのような街を形成するには絶好の状況

展望(環境)

循環型社会やエコタウンは世界的にも注目されており、その前例は多くある(福岡市や北九州市など、これを達成した都市は広範的に評価されている)

→双葉町のクリーンでないイメージを払拭

→より好意的なイメージをつける



煙におおわれた空(1960年代)



青空を取り戻した空(現在)

展望

クリーンなイメージを持たれるまちづくり
陸路、海路ともに交通の便の発達が見込まれる

人口の増加とともに工業的にも発達し、環境、工業双方で注目される都市になる可能性を十分に秘めている